

CRED レター

【No.3】

Center for Research and Educational Development (CRED) ※Credibility of CRED「クレッド」とご記憶ください

◆ 第19回FDフォーラムに参加して

学修・教育開発センター 主任 仲谷 ちはる



はじめに

公益財団法人大学コンソーシアム京都主催の「2013年度第19回FDフォーラム」に参加しました。龍谷大学深草キャンパスを会場に、2014年2月22日(土)、23日(日)の2日間行われました。総合テーマは、「社会を生き抜く力を育てるために」でした。2012年8月の中教審答申「新たな未来を築くための大学教育質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」に基づきます。グローバル化や情報化の進展、少子高齢化、労働市場および産業構造の流動化などに応じた大学改革に対する社会からの期待を踏まえたものです。2013年6月の「教育振興基本計画」の基本的な方向性の一つにも挙げられた「社会を生き抜く力の養成」について、大学がどのように「社会を生き抜く力」を育成していくのかを問われたテーマでもありました。

1日目

1日目は、2つのシンポジウムがありました。シンポジウムⅠは、「京都発!地球まるごと学習コミュニティ～共に育ち、共に学び合う社会を創る～」(定員620名)、シンポジウムⅡは、「未来を切りひらく学生を育てるには」(定員330名)がテーマでした。どちらも興味深く、両方とも参加したかったのですが、いずれか1つしか選べないため、サブタイトルの内容に惹かれてシンポジウムⅠへの参加を決めました。

約4時間の発表報告でしたが、3名の熱意ある発表に圧倒され、思ったほど長く感じることはありませんでした。全体として感じたことは、学生の学びの「場」は大学を超えて地域社会全体に求められていることでした。最初の発表は京都市です。京都市では、2009年度～2013年度に「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」という大学政策が打ち出され、学びの環境の充実、大学の国際化支援、産学公地域連携の推進、パワーあふれる学生のまち京都の実現の4本柱で施策が進められました。一番印象に残った取組は、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」の開設です。これにより、京都の大学生は大学キャンパスだけでなく京都駅前のスペース(240㎡)で21時まで活動や発表の場所を確保できるということを知

り、驚きました。東京にもそのような場所があるのでしょうか。2番目の発表は京都工芸繊維大学です。テーマは、「地域に根ざした教育研究による地域工学系人材の育成に向けて～京都の産業・文化芸術拠点の形成とK16プロジェクト～」でした。K16プロジェクトとは、京都(Kyoto)における地域工学系人材(Kogaku)を工織大(Kosendai)が舞鶴高専(Kosen)と連携・共同して育成する教育改革プロジェクトです。学校教育16年の修了時に、京都において求められる地域工学系人材を育成するため、産業界のみならず教育委員会とも連携したカリキュラム改革を実施しています。わが身を振り返り、自分は板橋区や北区の特性や課題についてほとんど把握していないことを反省しました。3番目の発表は立命館大学3年生です。京都にある24大学・約2000人の学生を束ねた「京都学生祭典」の企画・実践・振り返りの体験談を聞いて、学生が自ら主体的に活動することの大切さを感じました。最後に、文部科学省より課題提起がありました。「手取り足取りでない自律できる学修環境の整備」と「教員個人の活動プラス職員の力を活用した組織的な取組の必要性」です。これは、東京家政大学の教育理念の実現にも重なる指摘であると感じられ、重要な課題であると改めて考えさせられました。



2日目

2日目は13の分科会が行われました。各テーマは、「オープンエデュケーションを活かしたFDと教育改善」「学生同士の支えあいを促進し、コミュニティを元気にする学生支援～学生の

居場所としてのピア・サポート～」「大学教育をめぐる環境変化と教養教育」「大学図書館からの学習支援」「教育活動に果たす理想的な環境とは～短期大学での取り組み事例を中心に～」「大学の授業デザイン・授業改造の新しい形～授業の見学者や協力者と創る～」「授業アンケートと教育の個性化」「体験型学習の現状と課題」「授業のパラダイムシフト」「大学におけるライティング指導の諸問題」「異文化理解と多文化交流を深める授業の計画と実践」「産学協働でグローバル人材を育成するには」「発達障害学生の支援～社会と「ツナグ」～」です。分科会だけでなく、ポスターセッションも開かれました。私は第2分科会の「学生同士の支えあいを促進し・・・」に参加しました。報告者は、4大学より4名の教職員および2名の学生でした。

最近の学生は、意欲を失い、大学での人間関係に躓き、



場合によっては引きこもりになってしまうケースも多くなっているそうです。このことから、学生支援においては、できる

だけ早い段階から、学生同士の支援(ピア・サポート)のシステムを構築することが重要だと考えられています。報告者の2名は大学の保健管理センターの教員でした。学生は大学で少し「ホッ」とできる「居場所」を求めていること、学生課やカウンセリング室への相談までつながっていない初期困難学生の早期発見と早期介入が必要なことなど、問題は深刻化しているのだと感じました。ピア・サポート活動の意義、そして大学全体におけるその位置づけの難しさなど、僅かながらですが、理解が深まりました。紙面の関係で、個々の取組内容を詳しくご報告できませんが、学修・教育開発センター(CRED)にて「第19回FDフォーラム」のCD貸出が可能ですので、興味・関心のある方は、是非お問い合わせください。

おわりに

今回、FDフォーラムに参加し、大学の教育改革に関する様々な新しい取り組みについて、勉強する機会をいただいたことに、心から感謝します。大学のFD活動は大学教員だけでなく大学職員も一緒に活動することで、相互理解を深め、FD・SDの教職協働として行う必要があると考えます。そして、本年4月に作られた新しい組織CREDに配属されましたので、大学教育の主役である学生の声を反映させ、より魅力的な大学を創るために、何ができるのかを考え続けたいと思います。

お知らせ

教職員研究会のご案内

本年度も、9月12日(金)9:30～17:00に「教職員研究会」が開催されます。ご参加をお待ちしております。

記

第一部	基調講演 講師 常盤 豊氏 文部科学省高等教育局私学部長 ※小講堂(三木ホール)にて	10:00～11:30
第二部	3つのポリシー策定の意義とその方法 カリキュラムマップ作成ワークショップ 講師 佐藤 浩章氏 大阪大学教育学習支援センター副センター長 ※多目的ホールにて	13:00～14:30 14:45～17:00
	懇親会 ※Luce(ルーチェ)にて	17:00～18:00

CRED所蔵資料のご案内 No.1

CREDではFDおよびIR関係の資料を収集しております。一部の資料は貸出をすることができます。これからCREDレターで、順次ご案内してまいります。ご活用ください。貸出のルールは整備中です。暫定的なルールとして、資料の貸出は、本学教職員対象で、期間は2週間です。

おすすめ書籍



- 京都FD開発推進センター(発行)
おしえて!FDマン まんが FDハンドブック【新任教員編】
(2010年発行)
- 池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(著)
成長するティップス先生 授業デザインのための秘訣集
玉川大学出版部(2001年発行)
- 中井俊樹・鳥居朋子・藤井都百(編)
大学のIR Q&A
玉川大学出版部(2013年発行)

他にも多数ご用意してあります。ご関心をお持ちの方は、CRED事務室におこしください。